

言語学習会「言語くん・輪講」



こんにちは
嶋田真弓です

主催者：碓氷 旭 様

参加日：2014年5月26日（毎週1回、群馬県太田市福祉会館で行っています）

時間：午前10時～12時、午後1時～3時（基本、参加時間は自由です）

参加者：

野村 武男さん、

時田 泰男さん、

岡島 康文さん、

碓氷 旭さん



■ 碓氷 旭さんについて、少しご紹介します。

20年以上前、脳出血の後遺症により失語症になりました。

ご自分の経験を生かし、もっと効率的な言葉の訓練はないのかと考え「言語くん」を発案され、開発にご尽力いただきました。

現在、脳卒中患者の入院期間もとても短くなり、更に2年後には通所リハがなくなるという失語症者にとっての非常に厳しい現実を踏まえ、何とか失語症者の役に立てることをと日々考えていただいています。

この言語学習会「言語くん・輪講」も碓氷さんがみなさんに呼びかけ、始めたものです。

「言語くん」を使った「輪講」型の言語学習会、どんなものなのでしょう？

【 輪 講 】（りんこう）・・・？

「参加者が順に発表者となり、一つの書物を数人が分担を決め、かわるがわる講義をすること。」

なるほど・・・

つまり中心になる人（講師や先生）はいないのね！

参加者全員が、同じ立場で学習する会か。

でも・・・失語症の人たちは、コミュニケーションが苦手な人達。
先生がいなくても学習会できるのかしら？



午前中の参加者は、野村さん、岡島さん、碓氷さん、私。
 午後は、岡島さん、時田さん、碓氷さん、私です。

簡単に自己紹介を済ませ、いよいよ始まりです。

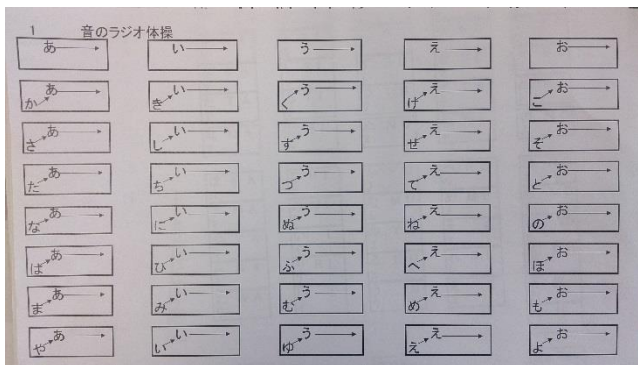
■ 音のラジオ体操 ■

担当は、碓氷さん「50音表のプリントを見ながらみなさんご一緒に！」

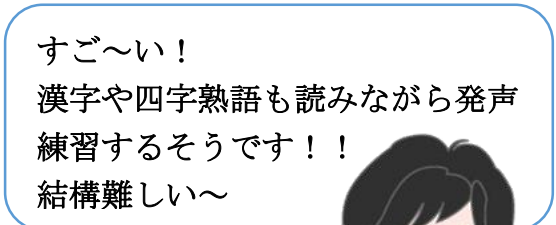
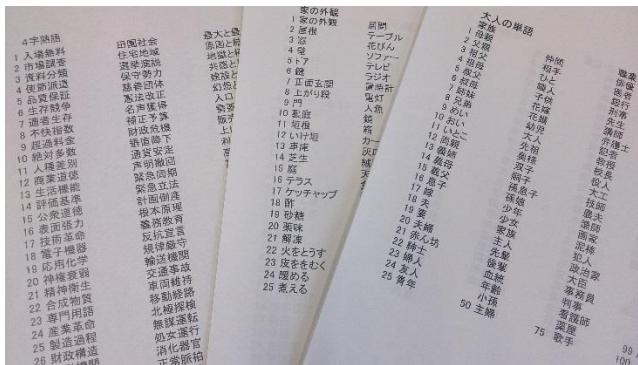
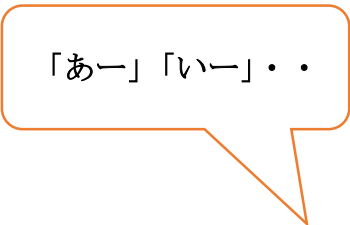
大ー大きく口を開け、大ーきい声で！

「あー」「いー」・・・「かあー」・・・「もおー」・・・

これをゆっくり発声したり、早く発声したり、逆から言ったり「おー」「えー」「うー」・・・
 野村さん、岡島さん、碓氷さんも力のある声でしっかり言えています。



私も負けずに・・・



■ 野村さんの奥様のお話し ■

主人は、病気になって6年程経過しました。
 病気になる前は日記を20年つけていたほど几帳面なひとで、誰とでも本当に良く話をする人でした。病気後も頑張って学習していたのですが、ほかの病気で1か月程学習できなかった時期がありそれ以降、極端に言葉が出なくなり今はあまり話しません。
 それでもあきらめずにこの学習会に通っています。
 先日「病院」とはつきり言えたんです！！うれしかった！！



自分のことは自分で！
 将来できなくなると困るでしょう。だから極力手は出さないように心掛けています。



◆ 感想 ◆

50音表を指さしながら大きく口を開け、お腹から声を出す練習です。誰かが少しつかえてしまったり、上手に発音できない文字は、他の人の口の開け方を見たり、音を聞いたりして、繰り返し発話します。

特に「か行」「さ行」、中でも「く」や「し」が2番目に入っている言葉は、とても言いにくそうです。「かく（書く）」、「いし」→「いひ」、「いしゃ（医者）」は、もっと難しい！！

■ 岡島さんの奥様のお話し ■

発症して2年半、学習会に入って2か月程ですが、この2か月の成果は本当に大きいと感じています。

言える言葉も増えましたよ！

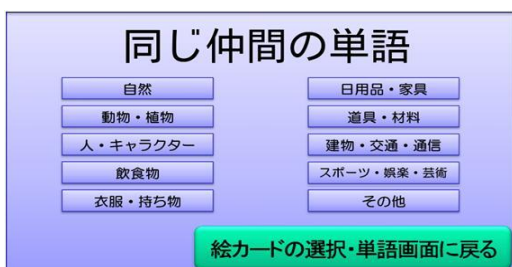
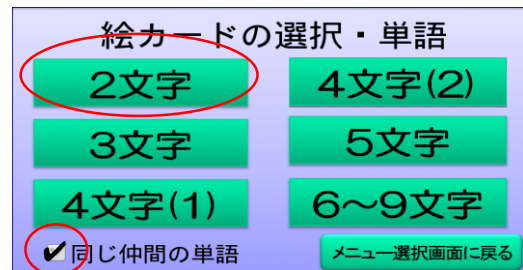
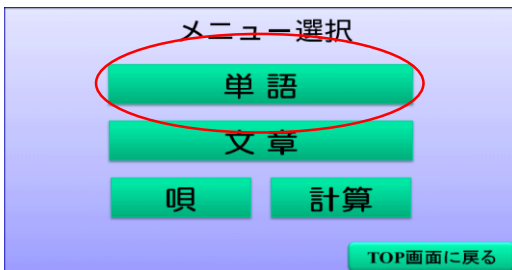


■ 「言語くん」を使った学習 ■



いよいよ「言語くん」の出番です。輪講型の学習会で「言語くん」はどんな使われ方をしているのでしょうか？興味津々です！！

「言語くん」の「単語」の「同じ仲間の単語」に✓を入れ「2文字」から始めました。



「自然」から「その他」まで全ての単語を5回づつくらい速さを変えながら繰り返し言います。

この学習を担当しているのは時田さん。

「言語くん」の絵カードや文字を見ながら単語を発声します。

「やま」

次に、ほかの方たちが続きます。

「やま」

これを **少しずつ速さを変えながら、一つの単語を5回くらい繰り返します。**

聞いていると結構リズム感もあり、小気味の良い言葉の掛け合いみたいです。

うまく言えない言葉は、「言語くん」の画面にタッチして、絵カードのお手本音声やヒントを聞いたり、**画面に表示させた文字を指でさしながら読む**ように発音します。



それでもうまくいかない場合は、

反対から読んでみてそれを何度か繰り返し、はい、もう一度！！

「ま～や」「まや」 → 「やま」

あら、不思議！！

きれいに言えました。

◆ 感想 ◆

「音のラジオ体操」の時は、「か行」「さ行」がとても言いにくそうにしていた岡島さん。

この掛け合い的な学習では、リズム感も手伝ってか、スムーズに言葉が出ていたことにビックリしました！！

失語症歴3年の時田さんが、失語症歴2年半の岡島さんのペースに合わせておこなっていたのが印象的でした。

それと学習のポイントが少しわかりましたね！

1. 絵カードを見て、または文字を見て少しずつ速さを変えながら、一つの単語を5回くらい繰り返す。
2. うまく言えないときは、「言語くん」のお手本音声を聞いたり、ヒントを聞いたり、画面に表示させた文字を指でさしながら読むように。これを言えるまで繰り返します。
3. それでもうまく言えないときは、反対から読んでみてそれを何度か繰り返し、もう一度発話する。

同じ障害を持つ失語症者が、やはり同じ障害を持つ失語症者を気づかいながら、リズムカルに進めていく発話訓練、感動です。

お見事でした。



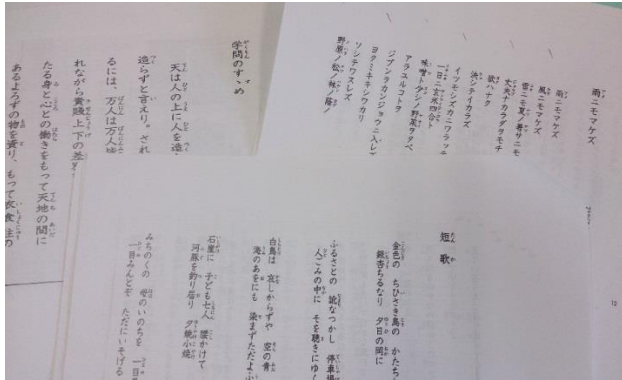
■ 音読・書字の学習 ■

音読学習は、プリントを利用して行います。

短歌や俳句、「坊ちゃん」や「放浪記」、「枕草子」「学問のすゝめ」等々、本当に多岐にわたっており、「あ～！学生の時に勉強したな。」と懐かしくなる文章もたくさんありました。

今日は、「都道府県検定クイズ」という本を朗読しながらクイズの答えも考えます。

文章を読むことが得意な時田さん。一字ずつ丁寧に読み上げます。他の方は指で文字を追いながら、読めるところを読んでいきます。



最後に書字訓練です。

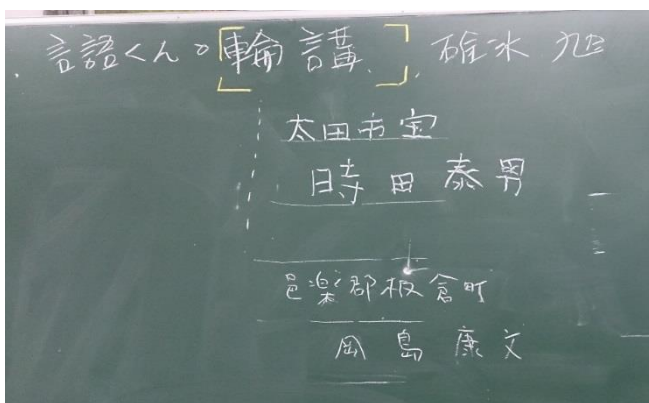
今回は、時田さんと岡島さんに黒板に住所と名前を書いて頂きました。

力強い字ですね！！

ここまでしっかり書けるまでには相当な努力が必要だったと思います。

岡島さんは、この学習会に参加するようになってまだ2か月。2か月前は筆圧もなく文字になっていなかったとか。

この進歩には時田さんも驚いていました。



■ 時田さんの奥様のお話し ■

発症して3年、日記は毎日書いています。

6月でこの学習会も卒業です。

当初の目的の家族とのコミュニケーションが取れるようになったからです。



■ 学習会に参加して

失語症の症状は「話す、聞く、読む、復唱する、書く、計算する」といった機能に現れます。

日常生活の中で、何が一番お困りですか？という質問に、ほとんどの人が「コミュニケーションが取れないこと」と答えます。

何をして欲しいのか、何がしたいのかがわからないことほど辛いものはないとご家族の方はおっしゃいます。

ご自宅での言葉の訓練は、ご本人はもちろんのこと、ご家族も「言葉を出す」ことに集中してしまうことが多いようです。

特に右上下肢麻痺になる方も少なくなく、ましてや利き側の麻痺ということもあり「書くこと」に関しては大変な努力が必要になります。

よって、途中であきらめてしまうという結果になってしまう方が非常に多いように感じます。

しかし、互いの意思や感情、考えを相手に伝えることができなければ、コミュニケーションが取れたことにはならないのです。

失語症の症状に現れる「話す、聞く、読む、復唱する、書く、計算する」こと全てが、言ってみればコミュニケーションをとるうえで、いちばんの基礎となるわけですね。

学習会では、この全てを少しずつ取り入れ、それぞれ症状の違う失語症者の特長をうまく引き出しながら、しかも失語症者ひとりひとりが中心になり、みんなで学習している会（輪講）でした。

■ 輪講学習について

脳卒中は、一般的に40~60歳代の男性に多い病気です。

その後遺症の一つに失語症という障害が残る場合が非常に多いです。

病気になる前は、家庭を支える大黒柱として、また職場では責任のある仕事を任せられ、立派にこなしていた人たちが突然倒れ、気が付いた時には言葉もうまく出せない。理解もできない。右半身麻痺もある・・・。

この状態を受け入れるだけでも並大抵のことではないのに、言葉の訓練、手足の訓練が始まります。

そして言葉の訓練は、言葉を覚えるいちばん最初の頃に戻って一から行わなくてはならない訓練です。この状況は、本人たちにとっては受け入れがたい状況なのではないかと想像できますね。

そこで碓氷さんが考えた「輪講」型の「言語くん」を使った言葉の訓練！！

ひとりひとりの人格を尊重し、学習の担当や分担を持っていただくことでモチベーションを上げてゆく、同じ苦しみを経験し、同じ悩みを持つ人たちだから成しえる学習方法と強く感銘を受けました。

言語学習会「言語くん・輪講」は、失語症者にとってなくてはならない学習方法の1つになっていかなければならないと感じました。

■ プラトーについて

プラトーとは、目標を決めて自分が成長しようと思う時、その目標に向かって成長して行くうえで、一時的に進歩が足踏みする状態を言います。

それはワンランク上を目指すスポーツだったり、学習だったり、業績だったり、すべてに共通しておこる状態です。

それを示したのが下記のグラフです。

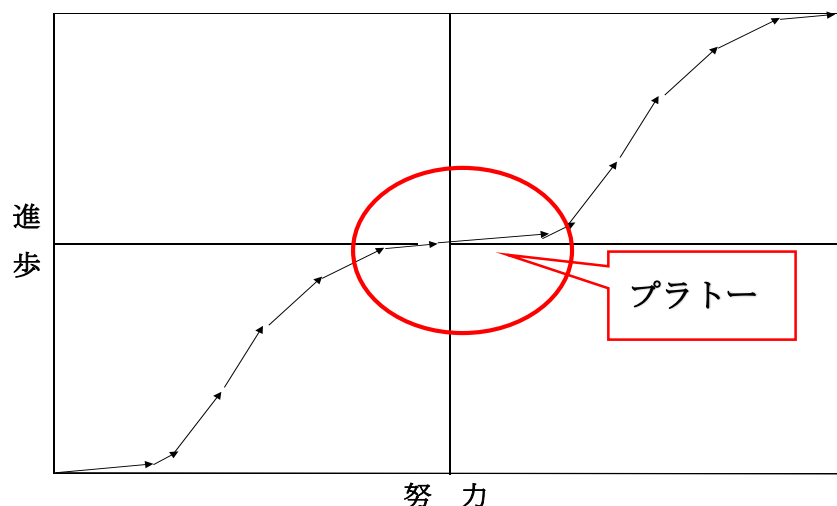
グラフを見てわかるように、その曲線はきれいな正比例グラフではなく、階段みたいな形で上昇していきます。

上昇途中で平らになっている部分（○の部分）がプラトーと呼ばれるところです。

ここで、満足してしまったり、あきらめてしまったりしたらその先には進めません。

ここを乗り越えるために必要なのが**最終目標**なのです。

「こうなりたい！！」という目標を持ち、それに向かって進んでいくこと、これが成長し続けることにつながるのでしょうか！！



今回この学習会に参加させて頂き、みなさんの生き活きと前向きな姿勢にまず驚かされ、希望をたくさん分けていただいた気がします。私たちも気付かなかった「言語くん」の使い方、学習方法をたくさんの失語症者に紹介していかなくてはと思いました。

来月からは「言語くん」のカラオケ機能を使った学習にも入るそうです。

次回参加させて頂くのは、11月の予定です。

みなさんの更なる進歩を期待して、今からワクワクしています。

